

Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency

CASBEE札幌



評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0 使用評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.3)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	社会医療法人 仁陽会 西岡第一病院	階数	地上3階
建設地	北海道札幌市豊平区西岡3条6丁目212-20,212-21,212-22,212-23	構造	S造
用途地域	第1種中高層住居専用地域	平均居住人員	156人
建物用途	病院	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
竣工年	2019年9月 予定	評価の段階	実施設計段階評価
敷地面積	2,607 m ²	評価の実施日	2018年5月1日
建築面積	1,821 m ²	作成者	
延床面積	4,652 m ²	確認日	
		確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆ 100%超: ☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	86%
③上記+②以外の	86%
④上記+	86%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

音環境	3.7
温熱環境	2.2
光・視環境	3.8
空気質環境	4.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

機能性	3.8
耐用性	3.5
対応性	3.4

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.5

生物環境	2.0
まちなみ	3.0
地域性・	2.5

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.1

建物外皮の	4.0
自然エネルギー	3.0
設備システ	2.8
効率的運用	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

水資源保護	3.4
非再生材料の	3.5
汚染物質回避	3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

地球温暖化	3.5
地域環境	2.5
周辺環境	3.0

3 設計上の配慮事項

総合 ・北海道の気候に配慮した外部空間。 ・経済性と寒冷地仕様の両立。 ・地域のランドマーク的施設。	A 省エネルギー ・樹脂サッシの採用 (インナーサッシ) ・LED照明の採用 ・人感センサーなどの採用 ・全熱交換機の採用
B 省資源等 ・再生砕石の採用	D 雪処理 ・敷地内通路、車路にロードヒーティングを計画。
C 緑化 ・敷地周囲に樹木を植栽し近隣の圧迫感の軽減、地域緑化の促進を考慮 ・一部、屋上緑化を計画	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

CASBEE札幌2016(ver.1.3)
社会医療法人 仁陽会 西岡第一病院

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0
欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.3)

スコアシート		実施設計段階		建物全体-共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	重点評価項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質									
Q1 室内環境									
1 音環境									
1.1 室内騒音レベル									
		病室の外部建具には内窓に樹脂サッシ(複層ガラス)を採用し2重窓とした		3.0	0.40	4.0	0.40	3.7	
1.2 遮音									
1 開口部遮音性能		外部サッシはT-2以上		5.0	0.40	5.0	0.30		
2 界壁遮音性能		病室界壁には耐火遮音間仕切を採用		5.0	0.60	4.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-	1.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-	3.0	0.20		
1.3 吸音									
				3.0	0.20	1.0	0.20		
2 温熱環境									
2.1 室温制御									
1 室温				3.0	0.38	3.0	0.57	2.2	
2 外皮性能		省エネ		3.0	0.25	3.0	0.43		
3 ゾーン別制御性				3.0	0.38		-		
2.2 湿度制御									
				2.0	0.20	2.0	0.20		
2.3 空調方式									
				1.0	0.30	1.0	0.30		
3 光・視環境									
3.1 昼光利用									
1 昼光率		昼光率確保の為、開口面積を大きく計画		4.2	0.30	4.2	0.30	3.8	
2 方位別開口					-		-		
3 昼光利用設備		省エネ		3.0	0.40	3.0	0.40		
3.2 グレア対策									
1 昼光制御		省エネ		3.0	1.00	3.0	1.00		
2 映り込み対策					-		-		
3.3 照度									
		待合等への照明配置、病室床頭部の照度確保		3.0	0.15	4.0	0.15		
3.4 照明制御									
		ベット単位での細かな照明制御に配慮		5.0	0.25	3.0	0.25		
4 空気質環境									
4.1 発生源対策									
1 化学汚染物質		全ての内装材にF☆☆☆☆を使用		5.0	0.50	5.0	0.63	4.0	
4.2 換気									
1 換気量				3.0	0.50	3.0	0.33		
2 自然換気性能					-	3.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮				1.0	0.50	1.0	0.33		
4.3 運用管理									
1 CO ₂ の監視					-		-		
2 喫煙の制御		館内には喫煙スペースは設けていません		5.0	1.00		-		

Q2 サービス性能			3.0	4.0	5.0	3.6	
1 機能性			3.7	0.40	4.6	1.00	3.8
1.1 機能性・使いやすさ			3.0	0.40	5.0	0.60	
1	広さ・収納性	病室は十分な広さを確保		-	5.0	1.00	
2	高度情報通信設備対応			-		-	
3	バリアフリー計画		3.0	1.00		-	
1.2 心理性・快適性			4.0	0.30	4.0	0.40	
1	広さ感・景観 (天井高)	十分な天井高さを確保		-	4.0	0.50	
2	リフレッシュスペース			-		-	
3	内装計画	スタッフ、患者同線の分画に配慮、着工後のモックアップ、病室モデルルームの作成による確認	4.0	1.00	4.0	0.50	
1.3 維持管理			4.5	0.30		-	
1	維持管理に配慮した設計	防汚性・抗菌性の高い建材の採用	5.0	0.50		-	
2	維持管理用機能の確保	日常の点検や定期点検に配慮した点検口の配置	4.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性			3.5	0.30		-	3.5
2.1 耐震・免震・制震・制振			3.8	0.50		-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)	建築基準法に定められた耐震性能数値の25%増を有している	4.0	0.80		-	
2	免震・制震・制振性能		3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数			3.4	0.30		-	
1	躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源 20~30年(メーカー値)	4.0	0.20		-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源	3.0	0.10		-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源	3.0	0.10		-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源 期待耐用年数の高い管材の使用	4.0	0.20		-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源	3.0	0.20		-	
2.4 信頼性			3.2	0.20		-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備		2.0	0.20		-	
3	電気設備	非常用電源設備、無停電電源設備。	4.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20		-	
5	通信・情報設備	通信手段の多様化、精密機械の地下への設置を避けている。	4.0	0.20		-	

3 対応性・更新性				3.4	0.30	3.2	1.00	3.4
3.1 空間のゆとり				4.6	0.30	3.4	0.50	
1	階高のゆとり		4.2m	5.0	0.60	3.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		十分な壁長さ比率を確保	4.0	0.40	4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.30	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				3.0	0.40		-	
1	空調配管の更新性			2.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性			2.0	0.20		-	
3	電気配線の更新性		通線ルートでの配管によるい、仕上げ埋設通線を行わない	5.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性		同上	5.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性			3.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保			3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出		緑化		2.0	0.30		-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		緑化		3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30		-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	雪処理		2.0	0.50		-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	省資源 緑化		3.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-		-	3.1
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.1
1 建物外皮の熱負荷抑制		省エネ	熱抵抗値の高い外壁、断熱材の採用 BPI _m 0.81	4.0	0.20		-	4.0
2 自然エネルギー利用		省エネ		3.0	0.10		-	3.0
3 設備システムの高効率化		省エネ	[BEI][BEI _m] = 0.84	2.8	0.50		-	2.8
4 効率的運用				3.0	0.20		-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00		-	
4.1	モニタリング	省エネ		3.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制	省エネ		3.0	0.50		-	
集合住宅の評価					-		-	
4.1	モニタリング	省エネ			-		-	
4.2	運用管理体制	省エネ			-		-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.5
1 水資源保護				3.4	0.20		-	3.4
1.1	節水		節水機器の採用、各所トイレに擬音装置の設置	4.0	0.40		-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.5	0.60		-	3.5
2.1	材料使用量の削減	省資源		2.0	0.10		-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用	省資源		3.0	0.20		-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	省資源		3.0	0.20		-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	省資源	フローリング・パーティクルボード・ビニル系床材	5.0	0.20		-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材	省資源		3.0	0.10		-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	省資源	乾式工法の採用	4.0	0.20		-	

3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.20		-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用		F☆☆☆☆以上の建材、接着剤の使用	5.0	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70		-	
1 消火剤	省資源		-	-		-	
2 発泡剤(断熱材等)	省資源		3.0	0.50		-	
3 冷媒	省資源		3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境			-	0.30		-	3.0
1 地球温暖化への配慮	省資源	高効率のガスヒートポンプ冷暖房機とすることで、CO2の排出を抑えた計画	3.5	0.33		-	3.5
2 地域環境への配慮			2.5	0.33		-	2.5
2.1 大気汚染防止	省資源		3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善	省資源 数値 算処理		2.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減	省資源		2.0	0.25		-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25		-	
3 交通負荷抑制		駐輪場、駐車スペース共に適切な駐車台数を確保	4.0	0.25		-	
4 廃棄物処理負荷抑制	省資源 算処理	分別可能な塵保管庫を建物内に計画、敷地内通路、車路へのロードヒーティングの敷設	4.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33		-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
1 騒音			3.0	1.00		-	
2 振動			-	-		-	
3 悪臭			-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40		-	
1 風害の抑制			3.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制				-		-	
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70		-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30		-	

Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency

CASBEE札幌



重点項目 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2016(ver.1.3)

1 建物概要						
建物名称	社会医療法人 仁陽会 西岡第一病院		BEE	1.2	BEEランク	B ⁺
建物用途	病院					
延床面積	4,652.2	m ²				

2 重点項目への取り組み		レーダーチャート	
地球温暖化対策	最重点項目 省エネルギー	★★★★★	<p>省エネルギー性能 5.0 4.0 3.0 2.0 1.0 0.0</p> <p>雪処理</p> <p>省資源等への取組</p> <p>緑化への取組</p> <p>★1=スコア(最低点~最高点)20%以下 ★2=スコア(最低点~最高点)20%~40%以下 ★3=スコア(最低点~最高点)40%~60%以下 ★4=スコア(最低点~最高点)60%~80%以下 ★5=スコア(最低点~最高点)80%以上</p>
	省資源等	★★★☆☆	
	緑化	★★★☆☆	
	雪処理	★★★★☆	

3. 重点項目のCASBEEスコア										
A 省エネルギー		(最高点	23.1	最低点	6.6)	合計	14.3点	／23.1点
Q1 温熱環境	スコア	0.6	／1.0	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア	3.2	／4.0			
Q1 光・視環境	スコア	1.3	／2.1	LR1 自然エネルギー利用	スコア	1.2	／2.0			
				LR1 設備システムの高効率化	スコア	5.6	／10.0			
				LR1 効率的運用	スコア	2.4	／4.0			
B 省資源等		(最高点	23.7	最低点	7.7)	合計	15.3点	／23.7点
Q2 耐用性・信頼性	スコア	0.7	／1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア	6.3	／9.0			
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.4	／2.3	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア	1.3	／1.9			
				LR3 地球温暖化への配慮	スコア	3.5	／5.0			
				LR3 地域環境への配慮	スコア	2.1	／4.4			
C 緑化		(最高点	15.3	最低点	3.1)	合計	7.8点	／15.3点
Q3 生物環境の保全と創出	スコア	1.8	／4.5	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.0	／2.5			
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア	3.6	／6.0							
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.4	／2.3							
D 雪処理		(最高点	3.0	最低点	0)	合計	1.0点	／3.0点
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.0	／1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.0	／2.0			

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■重点項目の**最高点**は、各評価項目で**レベル5**で評価された場合の点数
 ■重点項目の**最低点**は、各評価項目で**レベル1**で評価された場合の点数